

日本一般用医薬品連合会、日本OTC医薬品協会主催

【2022年度プレスセミナー】 セルフメディケーション税制関連の市場動向と 生活者の意識について

2022.9.5

株式会社インテージヘルスケア

長嶋 秀治

アジェンダ

1. セルフメディケーション税制対象品目の市場動向
2. 2022年分のセルフメディケーション税制の申告者数の推計
3. まとめ

1.セルフメディケーション税制対象品目の市場動向

セルフメディケーション税制対象品目の拡大

- 従来のスイッチOTCに、2022年分から非スイッチOTCが追加された
→セルメ税制申告対象となる品目の販売金額は、従来よりも大きく拡大

2021年まで

スイッチOTC
(医療用から転用された医薬品)

代表的なカテゴリーの例

総合感冒薬（かぜ薬）
胃腸薬
鼻炎治療剤
外用鎮痛・消炎剤
解熱鎮痛剤
皮膚用薬（除殺菌）
水虫治療薬

2022年以降

スイッチOTC
(医療用から転用された医薬品)

+

非スイッチOTC

拡大したカテゴリーの例

総合感冒薬（かぜ薬）
鼻炎治療剤
外用鎮痛・消炎剤
解熱鎮痛剤
皮膚用薬（除殺菌）
漢方薬、鎮咳去痰剤、目薬 など

セルフメディケーション税制対象品目の販売金額

➤ セルフメディケーション税制対象品目の販売金額は、**従来の約2倍に拡大**
→申告に必要な**年間購入金額12,000円に到達しやすくなり、セルメ税制申告者数が増えることが期待される**

■セルフメディケーション税制対象品目の市場規模（単位：億円）

	2020年		2021年		2022年
	1～6月	7～12月	1～6月	7～12月	1～6月
税制対象の スイッチOTC ※従来の税制対象	1,198	1,031	1,250	1,132	1,291
税制対象の 非スイッチOTC ※2022年から追加	—	—	—	—	917
税制対象の 販売金額合計	1,198	1,031	1,250	1,132	2,208

直近の2022年1月～6月の半期の販売金額で計算すると、
税制対象市場規模（2,208億円）÷従来のスイッチOTC税制対象市場規模（1,291億円） = 1.7

・データソース：SRI+データ

・市場定義：OTC計（指定医薬部外品含む）

※セルメ対象商品属性は、厚労省が2022年6月発表した時点のリストを反映

・データ期間：2020/1/1 - 2022/6/30

・データ指標：販売金額（百万円）

セルフメディケーション税制対象品目カテゴリー別の販売金額

- 従来の定義で税制対象品目が多かった、**外用鎮痛・消炎剤、解熱鎮痛剤、総合感冒薬、鼻炎治療剤、皮膚用薬は、1.4～2倍に拡大**
- 従来の定義で対象品目が少なかった、**目薬、漢方薬、鎮咳去痰剤で大幅に増加**

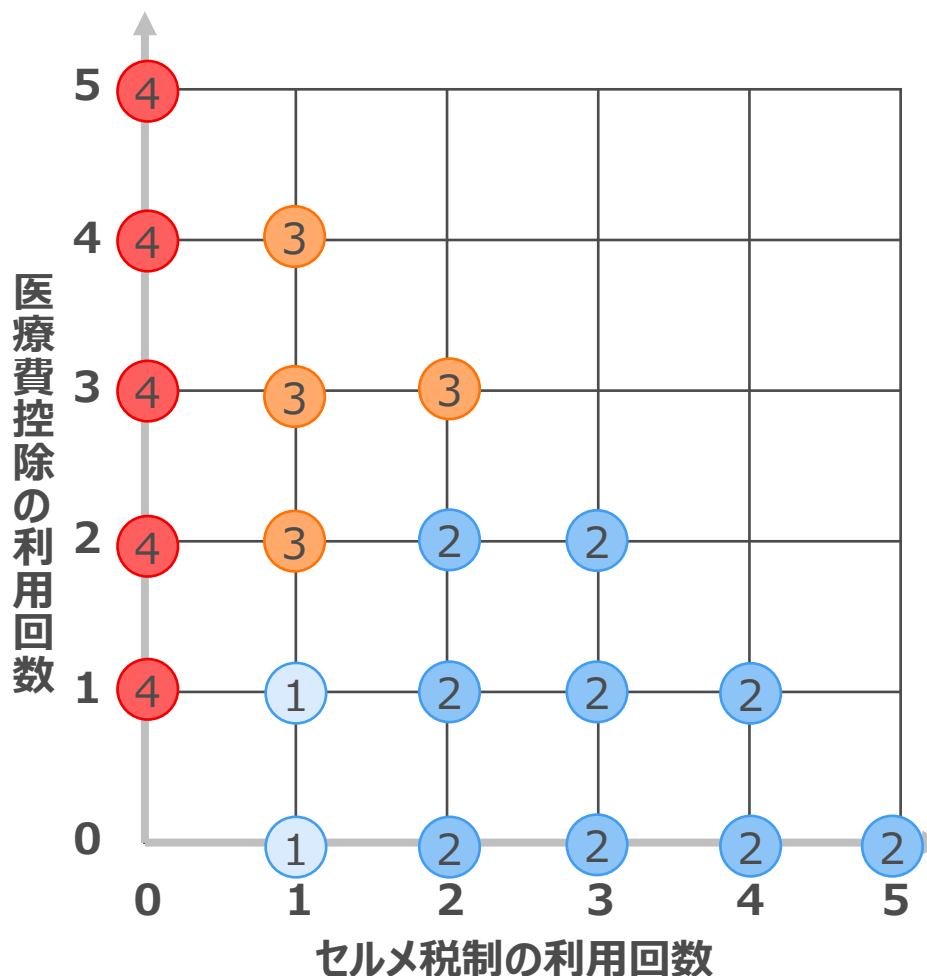
■セルフメディケーション税制対象品目の市場規模2021年（1～12月）（単位：億円）

	(a) スイッチOTC ※従来の税制対象	(b) 非スイッチOTC ※2022年から追加	(a+b) 税制対象の 販売金額合計	(a+b)/a 従来定義比の 販売金額の拡大比率
外用鎮痛・消炎剤	478	242	720	1.5倍
解熱鎮痛剤	527	187	713	1.4倍
総合感冒薬	315	306	621	2.0倍
皮膚用薬（除殺菌）	264	246	510	1.9倍
鼻炎治療剤	298	199	497	1.7倍
目薬	67	287	354	5.3倍
漢方薬	0	235	235	—
鎮咳去痰剤	31	113	145	4.6倍
上記以外その他	402	25	427	1.1倍
合計	2,382	1,841	4,223	1.8倍

※前ページとデータソースは同じ。データ期間：2021/1/1 - 2021/12/31

生活者15万人調査 二次調査の分析セグメント

過去5年間（2017年分～2021年分）の確定申告、セルメ税制申告、医療費控除申告の実績により、以下のようにグループに分けて分析した。



①②③合わせて、セルメ税制利用群

セルメ税制利用群： ①セルメ税制トライアル利用 (n=26)	過去5年間で、セルメ税制利用回数が1回、医療費控除利用回数が1回以下の人
セルメ税制利用群： ②セルメ税制主利用 (n=70)	過去5年間で、セルメ税制利用回数が、医療費控除利用回数と同じか上回る人
セルメ税制利用群： ③医療費控除主利用 (n=35)	過去5年間で、医療費控除利用回数がセルメ税制利用回数よりも上回る人
セルメ税制利用予備群： ④医療費控除のみ利用 (n=355)	過去5年間で、医療費控除のみ利用した人
セルメ税制利用予備群： ⑤確定申告あり・医療費控除、セルメ税制申告なし (n=343)	過去に、確定申告経験はあるが、医療費控除、セルメ税制の申告はない人
セルメ税制利用予備群： ⑥確定申告なし・セルメ税制認知・利用意向ありTOP2 (n=184)	過去に、確定申告経験がなく、セルメ税制を認知しており、利用意向がTOP2の人
⑦一般生活者 確定申告なし・セルメ税制認知・利用意向なしBOTTOM3 (n=196)	過去に、確定申告経験がなく、セルメ税制を認知しており、利用意向がBOTTOM3の人

セルメ税制対象品目に該当する代表的な症状へのOTC対処率

- セルメ税制利用予備群においては、「腰痛、関節痛、肩こり」のOTC対処比率が他の症状よりも低い
 →外用鎮痛・消炎剤は、他の症状並みにOTC対処率が伸びる余地がある

	n=		の痛風 痛、邪 み咳の なや諸 ど痰症 が状 出 る熱 、 喉頭	し鼻ア やづレ みま なりギ ど・ー 鼻の 汁諸 、症 く状	れ目ア なのレ どか ゆギ みー 、の 充諸 血症 、状 腫	腰痛 、 関 節 痛 、 肩 こ り	頭 痛
セルメ税制利用群①②③	131	1年間症状経験率	78.6	77.1	72.5	84.0	80.2
		1年間OTC対処率 ※症状経験ベース	74.8	63.4	71.6	61.8	78.1
セルメ税制利用予備群④： 医療費控除のみ申告経験あり	355	1年間症状経験率	60.6	61.7	53.5	72.4	56.6
		1年間OTC対処率 ※症状経験ベース	54.5	40.2	47.9	35.4	65.2
セルメ税制利用予備群⑤： 確定申告経験あり・ 医療費控除、セルメ税制申告経験なし	343	1年間症状経験率	37.9	44.9	39.9	63.0	49.3
		1年間OTC対処率 ※症状経験ベース	41.4	37.6	42.4	24.6	57.4
セルメ税制利用予備群⑥： 確定申告経験なし・ セルメ税制認知・利用意向ありTOP2	184	1年間症状経験率	44.0	50.0	41.8	59.8	47.3
		1年間OTC対処率 ※症状経験ベース	43.2	32.6	44.3	21.7	58.6

データソース：生活者15万人調査（2022年3月）

2. 2022年分のセルフメディケーション税制の申告者数の推計

2022年分のセルフメ税制・医療費控除の申告予定

➤ 2022年分のセルフメ税制申告予定ありと見なせる比率

セルフメ税制利用群①②③→ 「セルフメ税制を申告」+「セルフメ税制または医療費控除を選んで申告」

セルフメ税制利用予備群④→ 医療費控除を申告すると想定され、セルフメ税制申告は見込みにくい

セルフメ税制利用予備群⑤→ 「セルフメ税制を申告」+「セルフメ税制または医療費控除を選んで申告」

セルフメ税制利用予備群⑥→ 「セルフメ税制を申告」+「セルフメ税制または医療費控除を選んで申告」

→セグメント⑤⑥のセルフメ税制申告予定者は、セルフメ税制利用拡大のポテンシャルに該当

■ 2022年分のセルフメ税制・医療費控除の申告予定

- セルフメディケーション税制による控除を申告することのみ考えている
- 医療費控除、またはセルフメディケーション税制による控除について、どちらかを選んで申告することを考えている
- 医療費控除を申告することのみ考えている
- どちらも申告することを考えていない

	n=	申告予定ありと見なせる比率 (%)				セルフメ税制申告予定あり ※小さく見積もった場合 (青色)	セルフメ税制申告予定あり ※セルフメ税制または医療費控除申告予定者まで含めて大きく見積もった場合 (青+水色)
		セルフメ税制のみ	医療費控除のみ	どちらか	どちらも		
セルフメ税制利用群①②③	131	21.4	59.5	14.5	4.6	21.4	80.9
セルフメ税制利用予備群④： 医療費控除のみ申告経験あり	355	1.4	31.8	54.1	12.7	1.4	33.2
セルフメ税制利用予備群⑤： 確定申告経験あり 医療費控除、セルフメ税制申告なし	343	3.2	14.3	10.8	71.7	3.2	17.5
セルフメ税制利用予備群⑥： 確定申告経験なし セルフメ税制認知・利用意向ありTOP2	184	3.3	9.2	12.0	75.5	3.3	12.5

データソース：生活者15万人調査（2022年3月）

2022年分のセルメ税制申告者数推計

セルメ税制利用群①②③

- セルメ税制利用群①②③：過去5年間のセルメ税制利用経験ありの2022年分セルメ税制申告者数は、2.9万人～最大10.9万人と推計

20代～60代男女人口	人数	7,568万人
セグメントボリューム	構成比	0.18%
	人数	13.5万人

←国税庁公表データより



		セルメ税制申告のみ考えているで 小さく見積もった場合 (青色部分)	「セルメ税制または医療費控除の どちらかを選んで申告」まで 含めて大きく見積もった場合 (青+水色部分)
2022年分 セルメ税制申告予定者	構成比	21.4%	80.9%
	人数	2.9万人	10.9万人

2022年分のセルフ税制申告者数推計

セルフ税制利用予備群⑤

- セルフ税制利用予備群⑤：確定申告経験あり（医療費控除・セルフ税制申告経験なし）の2022年分セルフ税制申告者数は、3.2万人～最大17.6万人と推計

20代～60代男女人口	人数	7,568万人
セグメントボリューム	構成比	21.7%
	人数	1,646万人
そのうち、新制度セルフ税制対象品目 年間購入金額12,000円超え	構成比	6.1%
	人数	100万人

←購買者パネルSCIより集計



		セルフ税制申告のみ考えているで 小さく見積もった場合 (青色部分)	「セルフ税制または医療費控除の どちらかを選んで申告」まで 含めて大きく見積もった場合 (青+水色部分)
2022年分 セルフ税制申告予定者	構成比	3.2%	17.5%
	人数	3.2万人	17.6万人

2022年分のセルフ税制申告者数推計

セルフ税制利用予備群⑥

- セルフ税制利用予備群⑥：確定申告経験なし・セルフ税制認知・利用意向ありTOP2の2022年分セルフ税制申告者数は、1.2万人～最大4.6万人と推計

20代～60代男女人口	人数	7,568万人
セグメントボリューム	構成比	7.9%
	人数	601万人
そのうち、新制度セルフ税制対象品目 年間購入金額12,000円超え	構成比	6.1%
	人数	37万人

←購買者パネルSCIより集計



		セルフ税制申告のみ考えているで 小さく見積もった場合 (青色部分)	「セルフ税制または医療費控除の どちらかを選んで申告」まで 含めて大きく見積もった場合 (青+水色部分)
2022年分 セルフ税制申告予定者	構成比	3.3%	12.5%
	人数	1.2万人	4.6万人

2022年分のセルフ税制申告者数推計

- セルフ税制の利用予備群（ポテンシャル）を含めて計算した
2022年分セルフ税制申告者数は、7.3万人～最大33万人と推計

■ 2022年分のセルフ税制申告者数の推計

	「セルフ税制申告のみ考えている」 小さく見積もった場合 (青色部分)	「セルフ税制または医療費控除の どちらかを選んで申告」まで 含めて大きく見積もった場合 (青+水色部分)
セルフ税制利用群①②③： 過去5年間のセルフ税制利用経験あり	2.9万人	10.9万人
セルフ税制利用予備群⑤： 確定申告経験あり（医療費控除・セルフ税 制申告経験なし）	3.2万人	17.6万人
セルフ税制利用予備群⑥： 確定申告経験なし・ セルフ税制認知・利用意向ありTOP2	1.2万人	4.6万人
合計	7.3万人	33万人

※直近の2021年分のセルフ税制
申告者数2.8万人の2.6倍

将来のセルフ税制申告者数の拡大規模

- 将来的に、セルフ税制対象品目が、仮に「第3類医薬品まで」範囲拡大する場合、年間購入金額12,000円超の申告条件を満たす人数は、7.3倍に拡大
- さらに、仮に「全OTCまで」範囲拡大する場合、申告条件を満たす人数は、8.9倍に拡大

セルフ税制対象品目の範囲	年間購入金額12,000円超えの比率	人数規模 ※20代～60代男女人口7,568万人をベースに計算	拡大規模
従来の定義 ※2021年分まで	2.3%	174万人	—
新制度の定義 ※2022年分以降	6.1%	462万人	2.7倍
第3類医薬品まで 範囲拡大する場合	16.7%	1,264万人	7.3倍
全OTCまで 範囲拡大する場合	20.4%	1,544万人	8.9倍

- ・データソース：SCI（20～69歳）
- ・集計内容：年間購入金額12000円超（消費税込み）の構成比率
- ・指標：購入者数ベース

まとめ

まとめ

- セルメ税制対象品目は、従来のスイッチOTCに、2022年分から非スイッチOTCが追加されたことにより、**販売金額ベースで約2倍に拡大。**
- カテゴリー別に見ると、**外用鎮痛・消炎剤、解熱鎮痛剤、総合感冒薬、鼻炎治療剤、皮膚用薬は、1.4～2倍に拡大。**従来の定義で対象品目が少なかった、**目薬、漢方薬、鎮咳去痰剤で大幅増加。**
- セルメ税制利用予備群（ポテンシャル）においては、**外用鎮痛・消炎剤のOTC対処率が伸びる余地がある。**
- セルメ税制の利用予備群（ポテンシャル）を含めて計算した**2022年分セルメ税制申告者数は、7.3万人～最大33万人と推計。**
- 将来的に、セルメ税制対象品目が、**仮に「第3類医薬品まで」、さらに「全OTCまで」範囲拡大する場合、セルメ税制利用者数はさらに拡大する余地がある。**

ご視聴いただき、誠にありがとうございました

Healthier Decisions

我々は情報に命を与え、医療を享受する人、医療を提供する人、
健康を願うすべての人々が納得の選択をするための力となります

 **intage** 株式会社インテージヘルスケア